

チェアアンパイアがつかない試合のガイドライン

1. セルフジャッジの方法

プレーヤー・チームが判定とコールすることをセルフジャッジと言い、以下のとおり行う。

- 1) サーバーはサーブを打つ前に、レシーバーに聞こえる声で、スコアをアナウンスする。
プレーヤー同士、アナウンスによってその時点のスコアを確認する。
- 2) ネットより自分側のコートについて判定とコールをする。ボールがラインにタッチした時、ボールとラインの間に空間が見えなかった時、あるいはボールを見失って判定できなかったときは「グッド」である。
ボールとラインの間にはっきりと空間が見えたときは「アウト」または「フォールト」である。
- 3) 判定とコールは、相手にはっきりと分かる声とハンドシグナルを使って、ボールの着地後速やかに行なう。代表的なハンドシグナルは、人差し指を出して「アウト」「フォールト」を示し、手のひらを地面に向けて「グッド」を示す。
- 4) ダブルスの判定とコールは、1人のプレーヤーが行えば成立する。しかし、ペアの判定が食い違った場合はそのペアの失点となる。ただし、ネット、ストラップまたはバンドに触れたサービスを、1人が「フォールト」、パートナーは「レット(グッド)」とコールした場合は「(サービスの)レット」となる。
- 5) クレーコート以外はボールマークのチェックを行うことはできない。
- 6) インプレー中、他のコートからボールが入って来るなどの妨害が起こった場合は、「レット」とコールしてプレーを停止し、そのポイントをやり返す。
- 7) インプレー中、プレーヤーがラケット以外の着衣・持ち物を相手コート以外の地面に落とした場合は、それが1回目の時は、レットをコールしてプレーを停止し、そのポイントをやり返す。2回目以降、落とすたびにそのプレーヤーが失点する。
レットのコールは、落とし物をしたプレーヤー・チームがコールすることはできない。相手のプレーヤー・チームが妨害を受けたと判断した場合に限りコール出来る。ただし落としたことがプレーに影響を及ぼしていない場合はポイントが成立する。
- 8) スコアがわからなくなった時は、双方のプレーヤーが合意できるスコアまでさかのぼり、それ以降のプレーで双方が合意できるポイントで足したスコアから再開する。合意できなかったポイントは取り消される。ゲームスコアがわからなくなった時も同様に処理する。再開するとき、エンドとサーバーは、合意されたスコアに準じる。ただし、ゲームスコアが訂正され、再開する場合のサーバーは、次の順のサーバーに交代しなければならない。(同じプレーヤーが2ゲーム連続サーバーにはなれない。)
- 9) 次の場合はレフェリーまたはロービングアンパイアに速やかに申し出る。
 - ① 試合中、トイレ、着替え、ヒートルールなどでコートを離れるとき
 - ② 相手プレーヤーの言動やコール、フットフォールト等に疑問、不服があるとき
 - ③ プレーヤー同士で解決できないようなトラブルが起こったとき
- 10) メディカルタイムアウトを取りたいときは、レフェリーまたは、ロービングアンパイアに申し出る。トレーナーのいない大会ではプレーヤー自身が手当てをすることができるが、レフェリーまたはロービングアンパイアによって、手当てを必要とする状態かどうか確認後、その許可を得て3分以内に処置を行う。
- 11) 試合終了後、勝者は大会本部に試合ボールを届け、スコアを報告する。
- 12) 各判定とコールをする権利者は以下の通りとする。
 - a 「フォールト」「アウト」「グッド」はネットから自分側のプレーヤー・チームのいずれか
 - b 「ネット」^{注1}「スルー」^{注2}「タッチ」^{注3}「ノットアップ」「ファウルショット」^{注4}は両プレーヤー・チーム
 - c 「フットフォールト」はコート内にいるレフェリー、ロービングアンパイアのいずれか
- 13) オーバールール
「イン」「アウト」のオーバールールは巡回しているレフェリー、ロービングアンパイアのいずれかが行える。
- 14) 妨害によるレットのコール
 - a コート外からの妨害による「レット」のコールは両プレーヤー・チームができる。
 - b 対戦相手による無意識の妨害(落とし物1回目を含む)は妨害を受けたプレーヤー・チームのみ「レット」をコールできる。2回目以降は故意に妨害したとして失点する。
 - c 対戦相手からの故意の妨害「ヒンダランス」は、妨害を受けたプレーヤー・チームからの申し出によりレフェリー、ロービングアンパイアが判断する。ただし妨害を認知しながら意識的にプレーを続行した場合は妨害とみなされない。
- 15) 誤ったコールを直ちに訂正した場合
インだったボールを誤って「アウト」とコール(ミスジャッジ)したが直ちに訂正(コレクション)した場合は、1回目は故意ではない妨害としてポイントレットにする。ただし、ミスジャッジの前に打たれたボールが明らかなウイニングショットまたはエースだった場合は、ミスジャッジしたプレーヤー・チームの失点となる。そして、2回目以降は故意に妨害したとして失点する。

注1: 「ネット」…………… サービスがネットに触れたあと、レシーバー側へ超えた時

注2: 「スルー」…………… 打球がネットを通り抜けた時

注3: 「タッチ」…………… ボールが身体に触れた時・持ち物を相手コートに落とした時・ラケットや身体がネットに触れた時・ボールがラケットにかすった時

注4: 「ファウルショット」… 故意に2度打ちした時・ボールがネットを越してくる前に打った時